

## 第6学年 外国語科学習指導案

指導者 京都市立明德小学校 学級担任 内藤 瞳

1 日 時 令和7年5月9日（金） 第5校時（13:45～14:30） [教室]

2 学年・組 第6学年2組（35名）

3 単元名 This is me!（NEW HORIZON Elementary 6参照）

### 4 目 標

#### ① 単元の目標

これから一緒に活動する5年生と、お互いについてよく知るために、好きなものや宝物などについて、聞き取ったり紹介したりすることができる。また、好きなものや宝物などについて、例文を読んだり、それを参考に書いたりすることができる。

#### ② 関係する領域別目標

聞くこと	ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。
話すこと [発表]	イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

#### ③ 関係する言語材料（下線は新出表現）

##### □言語材料

**表現** I'm (Deepa). I like (badminton). My treasure is (this bag). It's from (my mother).  
Any questions?

**語彙** 遊び、スポーツ、身の回りのもの、人・家

##### □会話を続ける表現例

I'm good at playing badminton. I like blue. Any questions?

## 5 単元の評価規準

◎聞くこと	<p>知・【I like ....やMy treasure is ....およびその関連語句】について理解している。</p> <p>技・好きなものや宝物とその理由などについてのやり取りや短い話を聞いて、概要を捉える技能を身に付けている。</p> <p>思・相手のことをよく知るために、好きなものや宝物とその理由などについてのやり取りや短い話を聞いて概要を捉えている。</p> <p>態・相手のことをよく知るために、好きなものや宝物とその理由などについてのやり取りや短い話の概要を聞き取ろうとしている。</p> <p>・世界の人の生活を知るために、大切なものやその理由などについて聞き取ろうとしている。</p>
読むこと	<p>知・【同上】について理解している。</p> <p>技・【同上】を用いて書かれた文で、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を理解する技能を身に付けている。</p> <p>思・相手のことをよく知るために、好きなものや宝物とその理由などについて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれた文の意味が分かり、声に出して読んでいる。</p> <p>態・相手のことをよく知るために、好きなものや宝物とその理由などについて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれた文の意味が分かろうとし、声に出して読もうとしている。</p>
話すこと [やり取り]	<p>知・【同上】について理解している。</p> <p>技・好きなものや宝物とその理由などについて、【同上】を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。</p>
◎話すこと [発表]	<p>知・【同上】について理解している。</p> <p>技・好きなものや宝物とその理由などについて、【同上】を用いて、考えや気持ちなどを話す技能を身に付けている。</p> <p>思・自分のことを伝えるために、好きなものや宝物とその理由などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを話している。</p> <p>態・自分のことを伝えるために、好きなものや宝物とその理由などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを話そうとしている。</p>
書くこと	<p>知・好きなものや宝物とその理由などについて伝えるための、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を理解している。</p> <p>技・好きなものや宝物とその理由などについて伝える文を、例文を参考を書く技能を身に付けている。</p> <p>思・自分のことを伝えるために、好きなものや宝物とその理由などについて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて、例文を参考書いている。</p> <p>態・自分のことを伝えるために、好きなものや宝物とその理由などについて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて、例文を参考書こうとしている。</p>

## 6 単元について

### 【教材観】

- ・学年が変わったとはいえ、6年生の児童にとって、学級内の児童はすでによく見知った相手であるといえる。そこで本単元終末の言語活動では、自己紹介の相手を5年生にすることにした。5年生は、これから委員会やたてわり活動などで一緒に活動する機会が多く、自己紹介をするのにふさわしい相手であると考ええる。また、5年生は既習表現も少ないので、6年生が話す内容を吟味したり伝え方を工夫したりする必然性が生まれる。5年生を相手にすることによって、聞いたり話したりするときの相手意識についても考えさせるきっかけとしたい。
- ・第一時には、単元終末の言語活動について伝え、My Goal（単元終末に目指す自分の姿）を考えるようにする。その姿に近づけるよう、各時間の振り返りでは、その時間にできるようになったこと、まだできないことや困っていること、次の時間のめあてを書くようにする。成果と課題を振り返ることで、各児童が明確なめあてや見通しをもって学習に臨めるようにしたい。各時間の初めには、ペアでめあてや課題の確認を行い、その時間の中でどのような変化があったかを互いに見取れるように促していく。このような活動を通して、児童がゴールに向けて自己調整を図る力を高めていきたい。
- ・本単元は、話すこと（発表）の単元ではあるが、児童にはやり取りの中から発表内容を膨らませるという経験を積ませたい。そこでSmall Talkでは、児童の自己紹介カードの一部を見せ、質問をし合って誰のカードかを当てるという活動を繰り返し行う。質問の表現を与えるのではなく、時間ごとにカードの見せる部分を変え、どんな質問をすればよいか児童が自分たちで考えられるようにする。このような経験を積むことで、Let's try.等のコミュニケーション活動の中でも英語で質問をして発表内容を深めていく力が見につくのではないかと期待している。
- ・本時である第5時では、前時の振り返りや第3時の録音から立てた、各自のめあてを確かめることから学習を始める。Small Talkでは、児童の自己紹介カードの一部（宝物が見えるようにする）を見せ、質問をし合って誰のカードかを当てる活動を行う。誰のカードか分かったら、指導者が児童を巻き込みながら宝物について対話する中で、宝物の理由についての表現をいくつか例示することで、児童が自分たちの発表内容についても考えるきっかけとしたい。STEP2の中間交流では、言いたくても言えなかった表現の確認は行うが、もう多くの児童は言いたいことが概ね言えている段階であると予想される。そこでここでは、もう一度ゴールの目的や場面、状況に立ち返らせ、相手が5年生であることから、相手に伝わりやすくする工夫や、相手が話しやすくなる工夫について交流したい。伝わりやすくする工夫では、ジェスチャーを加えることや、伝えたい部分を強調すること、Do you know～?などと確かめながら話すこと、話す順序を整理することなどが考えられる。相手が話しやすくなる工夫では、リアクションや質問などが考えられる。このようなコミュニケーションのポイントについては、低学年のころからの積み上げのある児童が多いが、「6年生としての相手意識とは何か」を深く考えられる時間にしたいと考えている。
- ・本単元では、第3時、第5時、第7時に各自の端末で自己紹介を録画する。動画は次の時間の初めに見て、その時間の各自のめあてを立てることに役立てるようにする。また自己の成長を振り返る根拠としたい。各時間に行うレベルアップタイムには、デジタル教科書を活用したり友達とやり取りをしたりと各自の課題に応じた活動を選んで行う。それらのコンテンツは、ロイロノートで1枚のカードにまとめて児童に配布している。学年担任の先生たちの自己紹介もいつでも見られるように準備し、授業でも家庭学習でも児童が主体的に学べるようにしている。

教科に関わる児童の実態	児童の実態に対する具体的な手立てや支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞くことについては、意欲的に聞こうとする児童が多いが、話されることすべてを聞き取ろうとするあまり、難しいと感じてしまう児童がいる。</li> <li>・話すこと（やり取り）については、多くの児</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画や音声を視聴する際には事前に聞く視点を示しておくようにする。また、話の全部ではなく、概要を聞き取れることを意識させたい。</li> <li>・Let's Listenでは、音声を聞く前に書かれているイラストを見て宝物を予想させるなどして必要な語彙や表現を確かめるようにする。</li> <li>・内容を覚えて話すことよりも、自分で考えて話す</li> </ul>

<p>童が意欲的に取り組めるが、話すこと（発表）になると身構えてしまう児童が多い。表現や語彙を覚えることに注力してしまい、相手意識を忘れてしまうことがある。</p>	<p>活動を大切にしている。特に Small Talk では、指導者と児童、児童同士の対話をその場で考えて行う経験を積んできた。</p>
<p><b>目指す資質能力に関わる児童の実態</b></p> <p>・ 仲の良い児童が相手なら対話を続けられるが、普段あまり話さない相手とはすぐに対話が終わってしまうことがある。対話を深めたり広げたりすることに課題がある。</p>	<p><b>児童の実態に対する具体的な手立てや支援</b></p> <p>・ どの教科でも、ペアやグループでの対話を中心に据えた授業をしている。対話の中では、言葉でのリアクションや質問を大切にし、対話を広げたり深めたりする経験を積んでいるところである。</p> <p>・ 対話を続けにくい児童には、指導者がそばについて考えを聞き出すようにしている。また、座席やグループを配慮することで、少しでも話しやすい環境を作るようにしている。</p>

7 指導計画 【指導のポイント ㊦手立て ！配慮事項 ㊧他教科との関連 ㊨個別支援】

時	☆Today's goal ○学習活動	指導のポイント	評価
	【Sounds and Letters】文字の音に慣れ親しもう（1）		
毎 時 間	<p>☆文字の音に慣れ親しもう</p> <p>○チャンツや歌、My Picture Dictionary 等を使い、部活動・職業・動作・感想・様子などの語句や表現に慣れ親しむ。</p> <p>○Sounds and Letters で、これまで学習してきたことをもとに、文を声に出して読む。</p> <p>※Sounds and Letters は、毎時間実施する。</p>	<p>㊦場面設定を明確にすることで、気持ちを込めたり、文末の声の調子に気を付けて読んだりすることができるようにする。</p>	<p>語句や表現を読んでいる姿を観察したり、学習支援ソフトを活用し音声を吹き込んだものを提出させ確認したりする。</p>
	【アルファベット/Starting Out】好きなものや宝物などについて伝え合う。		
1	<p>☆好きなものや宝物について聞き取ったり、友達と伝え合ったりしよう。</p> <p>○Sounds and Letters 【B/b の音】</p> <p>○Small Talk 【好きなもの・誕生日・欲しいもの】</p> <p>○Our Goal 【単元終末の言語活動を提示する】</p> <p>○Listen and Think (ALT の自己紹介を聞く)</p> <p>○Listen and Think 後の言語活動</p> <p>言語活動⇒中間交流⇒言語活動</p> <p>○Let's Read and Write</p> <p>自分の名前を書く。</p> <p>○振り返り (My goal)</p> <p>単元終末の My goal を書く。</p>	<p>㊦単元の初めに、去年自分たちが6年生との交流でどんな振り返りを書いていったかを思い出すことで、成長を実感するとともに、5年生に紹介することへの意欲を高められるようにする。</p> <p>㊦指導者や ALT のモデルを見て Our Goal の見通しを持てるようにする。</p> <p>㊦Listen and Think 後に実際に既習表現を使って、名前や好きなものを伝え合う。</p>	
2	<p>☆好きなものや宝物について聞き取ったり、友達と伝え合ったりしよう。</p> <p>○Sounds and Letters 【C/c の音】</p> <p>○Small Talk 【好きなもの・家族・ペット】</p> <p>○Watch and Think 【片桐先生の自己紹介】</p> <p>○自己紹介カードを作る</p> <p>○レベルアップタイム</p> <p>○レベルアップタイム後の言語活動</p> <p>言語活動⇒中間交流⇒言語活動</p> <p>○振り返り①</p>	<p>㊦Watch and Think では、映像を見る前に児童に先生の好きなスポーツなどを予想させてから視聴する。また、視聴後にはどんな質問ができるかを考える。</p> <p>㊦<b>デジ教</b>レベルアップタイムには、各自で Let's watch. やチャンツなどのコンテンツを必要に応じて活用できるようにする。</p>	
3	<p>☆好きなものや宝物などについて友達と紹介し合おう。</p> <p>○Sounds and Letters 【D/d の音】</p> <p>○前時の録音を聞き、めあてを確かめる。</p> <p>○Let's Listen① 【大石先生が好きなもの】</p> <p>○レベルアップタイム 1</p> <p>○Let's Try</p> <p>言語活動⇒中間交流⇒言語活動</p> <p>○レベルアップタイム 2</p> <p>○Recording①</p> <p>○Let's Read and write 【自分の好きなもの】</p>	<p>㊦Let's Listen①の視聴前に児童に What color do you like? などと尋ねてから、How about Mr.Oishi? と教材の内容に繋げ、児童が聞く目的を明確にして聞けるようにする。</p> <p>㊦<b>ICT</b> 動画撮影しておくことで、児童が自他の変容を見取れるようにし、自己調整につなげるようにする。</p>	<p>聞：知・技</p> <p>登場人物の好きなものについて聞き取ったことを記述した教科書等を確認したり、発表の様子を観察したりする。</p>

【Your Turn】宝物とその理由などについて工夫して紹介したり、書いたりする。		
4	<p>☆5年生に、自分のことをもっと知ってもらえるように、工夫して紹介しよう。</p> <p>○Sounds and Letters 【F/f の音】</p> <p>○Small Talk 【できること・得意なこと】</p> <p>○Let's Listen② 【大地と早紀の宝物】</p> <p>○レベルアップタイム 1</p> <p>○Let's Try 言語活動⇒中間交流⇒言語活動</p> <p>○Let's Read and write 【自分の宝物】</p> <p>○振り返り②</p>	<p>㊦Let's Listen②の視聴後に○○san, what is your treasure? From your mother? Father?などと数人の児童とやり取りをし、宝物について話せるように導く。</p> <p>聞：知・技 登場人物の宝物について聞き取ったことを記述した教科書等を確認したり、発表の様子を観察したりする。</p>
5 本 時	<p>☆5年生に、自分のことをもっと知ってもらえるように、工夫して紹介しよう。</p> <p>○Sounds and Letters 【G/g の音】</p> <p>○Small Talk 【宝物・その理由】</p> <p>○第3時の録音を聞き、めあてを確かめる。</p> <p>○レベルアップタイム 1</p> <p>○Step 2 (ペア) 言語活動⇒中間交流⇒言語活動</p> <p>○レベルアップタイム 2</p> <p>○Recording②</p>	<p>㊦前時の段階で表現の理解が十分でない児童には、Small Talk 後のレベルアップタイムの中でWhat is your treasure? Why?などと個別にやり取りを行い、Step2でスムーズに活動ができるよう支援する。</p> <p>㊦Step2の中間交流では、宝物の理由について工夫して話している児童を取り上げるようにする。</p> <p>ICT各自が自己紹介をする姿を動画撮影し提出する。</p> <p>話【発】：知・技 宝物とその理由を話している姿を観察したり、学習支援ソフトで提出したものを確認したりする。</p>
6	<p>☆5年生に、自分のことをもっと知ってもらえるように、工夫して紹介しよう。</p> <p>○Sounds and Letters 【A/a の音】</p> <p>○前時の録音を聞き、めあてを確かめる。</p> <p>○レベルアップタイム</p> <p>○Your Goal (学級の友達と 4人組) 言語活動⇒中間交流⇒言語活動</p> <p>○言えたことの中から1文を書こう。</p> <p>○振り返り③</p>	<p>㊦Your Goal の中間交流では、好きなものだけでなく、苦手なものや嫌いなものなど、自分のことを知らせるために工夫が見られる児童を取り上げるようにする。</p> <p>話【発】：思・態 5年生に自分のことを伝えるために、話し手が工夫して好きなものや宝物とその理由などを紹介している姿を観察する。</p>
【Enjoy Communication】お互いのことをよく知るために、5年生と好きなものや宝物などを紹介し合う。		
7	<p>☆お互いのことをよく知るために、5年生と自己紹介をし合おう。</p> <p>○レベルアップタイム</p> <p>○Your Goal (5年生と 5年生2人・6年生2人) 言語活動⇒中間交流⇒言語活動</p> <p>○Recording③</p> <p>○5年生に向けて、交流の感想などを書く。</p>	<p>㊦Your Goal では、中間交流の時間を取り、言いたくても言えなかった表現を交流したり、手本となる児童の発表を示したりして、児童が発表内容等を再構築できるようにする。</p> <p>ICT自己紹介の様子を動画撮影し、これまでの動画と見比べることで、自己の変容を認知できるようにする。</p> <p>話【発】：思・態 5年生に自分のことを伝えるために、話し手が工夫して好きなものや宝物とその理由などを紹介している姿を観察する。</p>
【Over the Horizon】世界のことを知るために、世界の子どもたちの大切なものなどについて考える。		
8	<p>☆世界の人の大切なものやその理由などについて考えよう。</p> <p>○Sounds and Letters 【Review① 聞いてみよう①】</p> <p>○文化探検</p> <p>○フカボリ</p> <p>○世界探検 【カナダ】</p> <p>○物語探検</p> <p>○Word Bingo</p> <p>○去年の自己紹介の音声と今年の音声を聞いて、自己の成長を振り返る。</p>	<p>㊦動画視聴前にこれまで学習した表現を使ってやり取りをしたり、世界地図で動画に登場する国の場所を確認するなどして興味をもって聞くことができるようにする。</p> <p>ICT去年の自己紹介と、今年の自己紹介を聞き比べられるようにしておく。</p>

◎記録に残す評価を行う領域とその場面

聞：知・技

「登場人物の宝物について聞き取ったことを記述した教科書や発表の様子」【4時間目】

話【発】：知・技

「友達に宝物とその理由を話している姿や、学習支援ソフトで提出した動画」【5時間目】

話【発】：思・態

「5年生に自分のことを伝えるために、話し手が工夫して好きなものや宝物とその理由などを紹介している姿や、学習支援ソフトで提出した動画」【7時間目】

## 8 本時について（5/8）

### （1）目標

5年生に自分のことについて知ってもらうために、友達と宝物やその理由について紹介し合う。

### （2）展開

過程	児童の活動	指導者の活動	◇支援 *留意点 ⑤個別支援
8分	○挨拶をする。 Hello, Ms. Naito. It's May 9 <sup>th</sup> . It's Friday.  ○ Sounds and Letters はじめの音が異なるものを選ぶ。 Gで始まる語を見つける。	○挨拶をする。 Hello, everyone. What is the date today? What day is it today?  ○Sounds and letters Today's alphabet is "G/g". Alphabet の名前と音を確認する。 4線ボードを使って、書き方を示す。	◇授業に入る前にフォニックスを流しておくことで、児童が耳慣れできるようにする。  ◇これまでに学習した【C/c】と発音の仕方は同じであるが、【G/g】は有声音であることを伝えることで、発音のイメージがつきやすいようにする。 *Picture Dictionary を活用して語彙を調べられるようにする。
8分	○Small Talk <b>対話</b> 誰の自己紹介カードかを当てる。 What is your treasure? My treasure is ~. Can you play tennis? Yes, I do.  ○めあてを確認する。	○Small Talk <b>対話</b> 自己紹介カードの一部を見せ、誰のカードかを当てる活動をすることを伝える。 Whose card is this? 児童を巻き込みながら進める。  ○めあてを確認する。	◇どんな質問をすれば、カードの持ち主がわかるかを児童に考えさせる。  ◇本単元及び本時のめあてや活動の流れを確認することで、見通しをもって活動できるようにする。本時の活動が、最終のゴールにどう生かされるのかを意識できるようにする。
	5年生に、自分のことをもっと知ってもらえるように、工夫して紹介しよう。		
	相手意識・目的意識＝5年生に自分のことをよく知ってもらうために  各自のめあてをペアで確認する。	単元終末の言語活動における「相手意識・目的意識」を確認する。  必要に応じて前時の録音を確認させ、本時のめあてを確かめるよう伝える。	
6分	○レベルアップタイム1 ・友達とやり取り ・わからない語彙を調べる ・ゴールの活動を視聴 ・STEPI の映像で練習 ・指導者や友達の手本を視聴など	○レベルアップタイム1 机間指導を行い、個に応じた支援や助言を行う。	⑤宝物やその理由について一人で言うことが難しい児童には、そばについて一緒に表現を確かめることで、次の活動でスムーズに話せるようにする。

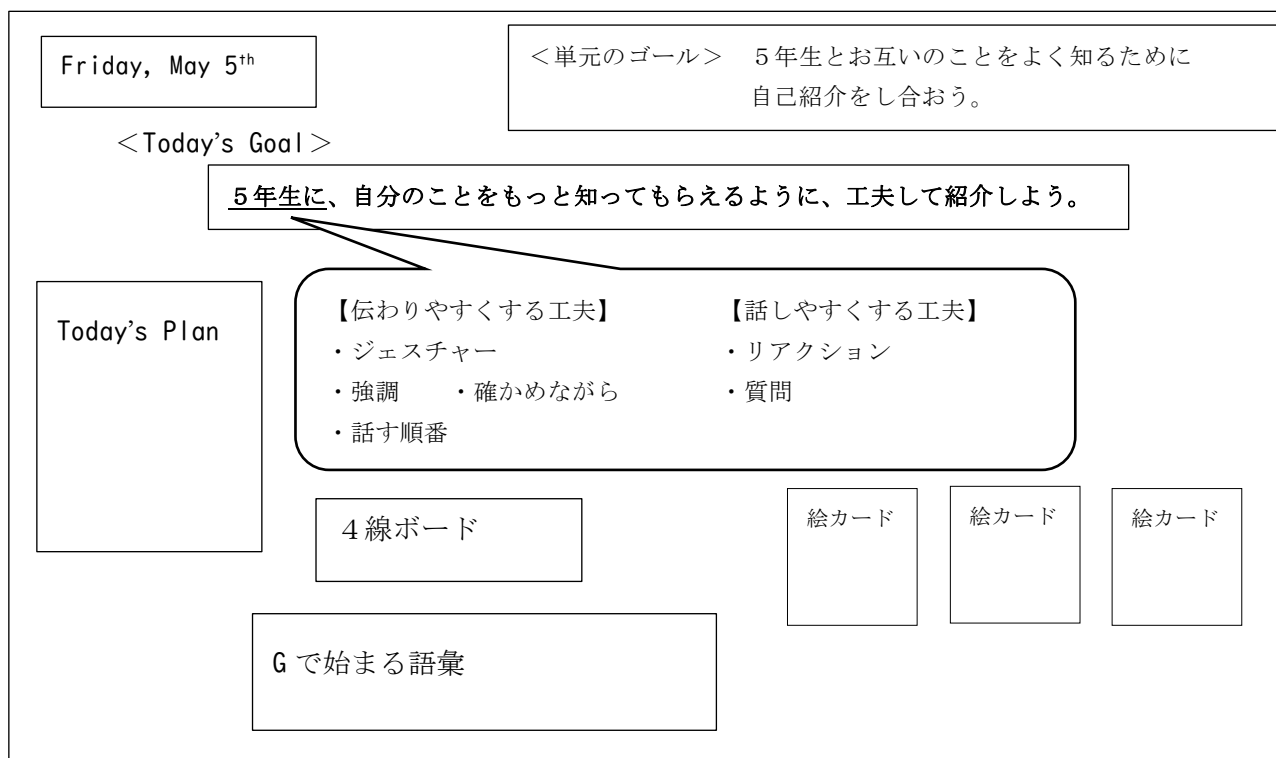
16分	<p>○【Step2】 前半の言語活動（5分） 中間交流（6分） 後半の言語活動（5分）</p> <p>おおむね満足できる姿 Hello, I'm ○○. I like <i>yakiniku</i>. What food do you like? My treasure is my soccer ball. It's from my mother. What is your treasure? I can run fast. Can you run fast? ... 宝物やその理由について話すことができる。また、1つ以上の既習表現を生かして、自分のことを伝えたり質問をしたりしている。</p>	<p>○【Step2】 机間指導をする。 中間交流をする。</p>	<p>◇中間交流では、言いたくても言えなかった表現を話し合ったり、手本となる児童の発表を示したりすることで、後半の活動で変容を促せるようにする。</p>
7分	<p>十分に満足できる姿 Hello, I'm ○○. My treasure is my soccer ball. It's from my mother. I like soccer. I can play soccer well. My favorite soccer player is Messi. This soccer ball is so cool. What is your treasure? I'm good at swimming. ... 宝物やその理由について詳しく話すことができる。また、3つ以上の既習表現を生かして、自分のことを詳しく伝えたり質問をしたりしている。</p>	<p>○レベルアップタイム2 個別の支援を行う。</p> <p>早く終わったら友達の録画を見たり、以前の自分の録画と比べたりするよう伝える。</p>	<p>㊦レベルアップ1のときにそばについた児童ともう一度やり取りを行い、Recordingで自分で言えるように支援する。</p>

### （３）評価（記録に残す評価）

話〔発〕：知技	宝物とその理由を話している姿を観察したり、学習支援ソフトで提出したものを確認したりする。
「おおむね満足できる」状況と判断できる「発言」	
<p>Hello, I'm ○○. I like <i>yakiniku</i>. What food do you like? My treasure is my soccer ball. It's from my mother. What is your treasure? I can run fast. Can you run fast? ... 宝物やその理由について話すことができる。また、1つ以上の既習表現を生かして、自分のことを伝えたり質問をしたりしている。</p>	

It's from ~. の表現については、宝物の理由としてふさわしくない場合もある（例えば宝物が家族や友達の場合など）ので、必ずしも自己紹介の中にも含めなくてもよいとしているが、Small Talk の中で持ち物について話したり、出身地について話したりする中で触れられるようにする。

#### (4) 板書計画



#### (5) 対話のモデル

(対話のねらい)

- ・宝物を尋ねたり、答えたりする表現の定着
- ・宝物の理由についての表現をインプット（後の活動で付け加えられるように）
- ・指導者から質問を提示するのではなく、児童が質問を考える力をつける。

T: さあ今日も誰のカードか当ててもらおう。 Whose card is this?

S: 誰やろ。 算数が好き? テニスが得意なんかな。

T: 算数が好きそう? 何て質問したらいいかな。

S1: Do you like math?

T: Oh, nice. ○○ san, Do you like math?

S1: No, I don't.

(数名に尋ねる。)

T: 算数好きな人けっこういるなあ。他に質問できそうなことあるかな。お金…これなんやろ。

S: 宝物! Treasure.

T: Yes, maybe. 宝物って、何て聞いたらよかった? (児童から引き出して)

○○ san, what is your treasure?

S2: My treasure is my family.

T: Your family! Sounds good. Why (is it your treasure)?

S2: My family is very kind.

T: Wow, nice treasure.

(数名に宝物について尋ねる。)

T: なかなか見つからへんなあ。ペアの人と宝物について話してみて! この人や! と思った人は手を挙げてください。

(数人手を挙げる。)

T: 宝物が同じ人が結構いるね。他にどんな質問したら特定できそうかな。

S3: Can you tennis?



T: ああ、 Can you play tennis? (訂正する部分を強調) 確かにテニスができそう！  
Can you play tennis? What can you do? (数名に尋ねる。)  
(ペアでできることやできないことについてのやり取りをする。)  
(だれのカードか特定されたら、カードの全体を見せる。)

T: 最後にダメ押しの質問！どんな質問ができますか？

S: When is your birthday? Do you like sushi? など  
(出てきた質問を児童を巻き込んで行う。)